

# ちょっと読んでみませんか（令和五年正月）

## 第66話『令和五年 今年の言葉』 ～本源寺副住職 本間健司

おかげさまで、令和四年度には、この『ちょっと読んでみませんか』の第一話から五十話までをまとめた文集を、日蓮聖人御降誕八〇〇年の慶讃として出版することが出来ました。

皆様の日常生活のなかで、ふと立ち止まった時に開いて読んで頂ける。そんな一冊になれば、と願うばかりです。

さて、その文集をちよつと開いて頂いて、第17話では『子が親を選ぶ!?』というテーマでお話ししました。内容を少し振り返ってみましょう。

産婦人科医の池川明さんが、胎内記憶や生前記憶を持つ多くの幼児たちに深く関心を持ち調査を行った結果として、著書の中で次の三つの結論を挙げていました。

- ① 子供の選択で両親は選ばれる
- ② 子供は、両親を助けるために生まれてくる
- ③ 子供は、自分の人生の目的を達成するために生まれてくる

そしてこのことは、法華経(妙法蓮華経)の教えとも一致していることをお話ししました。

その一例として、第二十七章『妙莊嚴王本事品』みょうしょうしようごんのうほんじほんに登場する浄蔵(じょうぞう)と浄眼(じょうげん)という兄弟が、国王である父親の信じる教えを改めさせて、国を正しい方向に導くという「目的」を持って、王のもとに自ら願って生まれてきた、という話を挙げました。

その他にも、「自ら目的を持って生まれてくる」ことを示す经文として、第十章の『法師品(ほっしほん)』には、如来の滅後において法華経を實踐する者を讃えて、次のように説かれています。

「(この者は)すでに過去世において悟りを得るべき功徳を積みながらも、人々を哀れみ幸福に導かんがために、あえてこの悪世に願って人間として生まれ、この教えを広めるのである。それがたとえ一人に対してであったとしても、その者は“如来の行い”を實踐していると言えるのである。」と。

自分には有難すぎる教えではありませんが、「自分の人生の目的・使命」を思い出させてくれる大切な経文でもあります。

さて、生まれた時から人生の方向が決まっているという話題になると、一般的に、よく『宿命(しゆくめい)』や『運命(うんめい)』という言葉が使われます。

ここ数年、縁あって魂についての学びを深めてまいりましたが、法華経の教えと考え合わせてみても、いわゆる『宿命』や『運命』というものがあるというのは事実のようです。

自分(の魂)が、この世に生を受ける時に決めてきた「人生の目的・テーマ」が『宿命(しゆくめい)』に当たりますが、それだけでなく、その目的を達成するために適した「条件」も『宿命』として自分で選択しながら生まれてくるというのです。

たとえば…

- 1, 物的試練…人間関係(家族、夫婦、職場)の問題・自分の欲求や愛情の問題
- 2, 寿命…心身の使い方で変化する余地はある
- 3, 国・民族・時代
- 4, 家庭環境
- 5, 性別
- 6, 体質
- 7, 両親

自分が決めた「人生の目的・テーマ」達成のために、あえて、様々な試練や問題をも自分に課して生まれてくることを知ると、「自分の魂」でありながらも、なんだか誇らしく応援してあげたい気持ちになつてきませんか？

でも一方、自分の人生が『宿命(しゆくめい)』で決まっているとすると、人生の進む道を自分で決めることが出来ない無力感を抱いてしまうような気もしますが…。真実はその逆です。

『宿命』というのは、あくまで「人生の大枠」。

その決められた「大枠(条件)」の中で、いかに自分が生きていくのか、が大切。

「大枠(条件)」に不満を抱きながら後ろ向きに生きるか。

それとも、自分で選んだ『宿命』として、また「仏様のお導き」として受け入れながら精いっぱい生きてみるか。

それによって、人生の方向が大きく変わってくるのです。

それこそが、いわゆる『運命(うんめい)』と呼ばれるものの正体です。

私たちは、忙しい日常生活に身を置いていると、様々な出来事に対してただただ一喜一憂してしまい、気付かないうちに時が過ぎていってしまいがちです。

だから、新年を迎え清々しい気持ちのこの時こそ、今一度、自分が決めた「人生の目的・テーマ」について想いを巡らせてみてはいかががでしょうか。

自分の人生の大枠(条件)である『宿命』のことを。それに対していかに自分が向き合ってきたかという『運命(うんめい)』のことを。

令和五年、今年という言葉は、

## 『宿命(しゅくめい)』と『運命(うんめい)』

にしたいと思えます。

きっと「南無妙法蓮華経」の御題目とは、『宿命』をあるがまま受け入れ『運命』を切り開いていく勇氣・覚悟を授けてくれる、そんな“魔法の”言葉なのだと思います。

それでは、皆様方にとって更に素晴らしき『運命』が開けてくる一年になることを祈念しながら、ご一緒に御題目を唱えて参りましょう！

合掌 南無妙法蓮華経 南無妙法蓮華経 南無妙法蓮華経